

# よりいっそうの保守改善と 被ばく低減が図れます



## 保守・点検性

S-FMCRDの設計では、保守・点検性を十分に考慮しています。この為、上部CRDは毎定検時3体、スプールピース、モータユニットなど下部CRDは毎定検時21体の点検で済み、水圧式CRDに比べ点検員数を削減できます。さらに、S-FMCRD取扱装置による取扱いが可能です。

### ●分割構造の採用

- スプールピース内に交換部品集中
- スプールピース部だけの点検

### CRD本体のメンテナンスフリー化

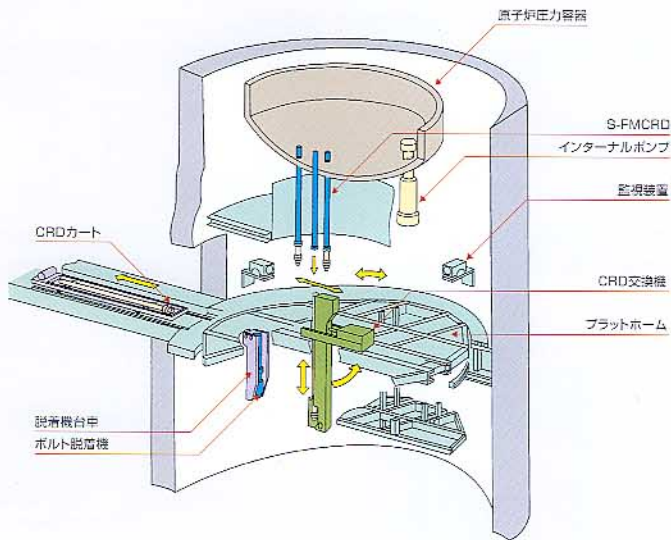
- 非接触式シール(ラビリンスシール)の採用
- 点検頻度の低減

### ●下部ドライウェル内配置の簡素化

- インターナルサポートの採用(外部サポート削除)
- 水圧配管・電気ケーブルの上方配置



## S-FMCRD取扱装置の概念図



## S-FMCRD取付け・取外し概略手順

(所要時間:当社計測値)

No.	1	2	3	4
取扱状態				
作業内容	初期状態	モータユニット取外し	スプールピース取外し	CRD本体部取外し
点検作業	スプールピース モータユニット	取外し所要時間 約145分	取付け所要時間 約160分	
	スプールピース モータユニット CRD本体		取付け所要時間 約225分	取外し所要時間 約250分



S-FMCRD構造(分解時)▲

スプールピース▲

S-FMCRD取付状態▲